

国語一20（第6学年） 調べたことやまとめたことについて、討論をする事例

【学習活動の概要】

1 単元名 討論会をしよう		
2 単元の目標 情報を多面的に集めて自分の考えを明確にしてまとめたり、話し手の意図をとらえて聞いたりしながら互いの立場や意図をはっきりさせて討論をすることができる。		
3 評価規準		
【国語への関心・意欲・態度】		
・討論会に向けて資料を多面的に調べて自分の考えを確かなものにしようとしたり、討論することで新たな考えを生み出そうとしたりしている。		
【話す・聞く能力】		
・話題について、多様な材料を基にして調べ、自分の考えを根拠付けたり、より幅広い視点から考えを見直して意見をまとめたりしている。		
・討論に向けて材料を集めながら、異なる意見や対立する意見に対して、それらをどのように聞き取り、どのように質問して自分の意見と関係付けるか、どう切り返して反論するかなどを考えている。		
・互いの立場をはっきりさせ、考えの違いを大事にし、出された意見を関係付けながら討論している。		
【言語についての知識・理解・技能】		
・語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成があることを理解している。		
4 教材 学級で討論することを取り上げた教科書教材		
5 主な学習活動（単元の指導計画（全7時間））		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第一 次 ②	<p>◆討論会に向けて見通しを立てる。</p> <p>○これまでに行ってきた話し合いを振り返り、異なった立場から考えを出し合う討論の意義を確かめる。</p> <p>○身近な話題や考えていることから、学級で討論する話題を決める。</p> <p>○討論会に向けて学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を一つに集約する、多様な意見を出し合うことでそれぞれの考えを深めるなど、これまでの話し合い活動の特徴を比較できるようにする。 ・互いの立場や考えを理解したり、新たな考えを生み出したりするといった討論のもつ意義を確かめられるようにする。
第二 次 ③	<p>◆学級で討論するための準備を行う。</p> <p>【話し手としての準備】</p> <p>○話題について材料を集めながら、自分の考えをはっきりさせていく。</p> <p>【聞き手としての準備】</p> <p>○自分の考えと反対の立場も踏まえながら、討論会で聞きたい事柄をはっきりさせる。</p> <hr/> <p>○グループ討論会をして意見を述べ、自分の考えをより明確にする。</p> <p>○グループ討論会をし、異なる立場の考えも踏まえて自分の考えを検討する。</p> <hr/> <p>○全体討論会に向けてさらに必要な情報を集め、どう発言するかなどを考える。</p> <p>○自分が聞いてははっきりさせたいことは何か、質問する際どう切り込むかなどを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手としての準備だけではなく、聞き手としての準備も一体的に行うようにする。 ・全体での討論及びグループ討論で司会を担当する児童に対しては、 <ul style="list-style-type: none"> ◇討論をどんな方向にもって行くか。 ◇柱立てをどうするか。 ◇意見が出ないとき、対立して収拾がつかないときなどにどう対応するか。などの点から個別的に指導を行う。 ・途中段階でグループ協議を取り入れることにより、話し手・聞き手・司会者それぞれの立場や考えを明確にして準備を進められるようにする。 ・準備の最終段階として、どう発言するか、どう質問するかなどを具体的に想定できるようにする。
第三 次 ②	<p>◆学級で討論会をする。</p> <p>○司会者は、討論のテーマと討論の方向性、主な柱立てを述べて、全員で確認する。</p> <p>○話題について、討論する。</p> <p>○討論会終了後、どんな発言が自分の考えを深めたり広げたりするのに役立ったか、討論会を進める際に、どんな整理の仕方が有効だったか振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○討論の方向性や柱立てを共通理解することにより、計画的に討論を進められるようにする。 ○自分と学級全体の考えの深まりに有効であった発言や進め方を振り返って、今後に生かせるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

- 小学校学習指導要領・国語の第5学年及び第6学年「A 話すこと・聞くこと」の指導事項「ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。」「エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。」「オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。」を取り上げて指導するものである。

その際、「A 話すこと・聞くこと」の言語活動例イに示す「調べたことやまとめたことについて、討論などをする。」を通して指導することにより指導の効果を高めた事例である。

- 国語科における「討論」を通じた指導のねらいについて

討論は、各教科等においても行われる言語活動である。各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を育成する上で、指導すべき国語科のねらいを明確にして言語活動を具体化することが大切になる。本事例においては、上記のような指導事項を指導し、討論における取材や聞く能力、話し合う能力を育成するものである。

【言語活動の充実の工夫】

① 討論することの意義の理解

導入に当たっては、討論が、立場や考えを明確にして意見を述べ合うことによって、互いの立場や考えを理解したり、自他の考えを広げたり新たな考えを生み出したり、課題を解決するのに役立ったりするものであることを確認することが重要なものとなる。本事例においては、そうしたことを意識付けた上で、そのためにどのように話したり聞いたり話し合ったりするかを学習できるようにしている。

② 話すことと聞くこととの同時的・一体的指導

話し合いの指導においては、話すことと聞くことが一体的に行われることを踏まえて、その指導も同時的・一体的に行うことが効果的である。

したがって、討論会に向けた準備の段階においては、話す内容を構成するのみならず、聞くことの学習の過程をも明確にし、聞きたい事柄を見付けたり、異なる意見や対立する意見に対して、それらをどのように聞き取り、どのように質問して自分の意見と関係付けるか、どう切り返して反論するかなどを明らかにしたりできるような指導の位置付けが大切なものとなる。

本事例においては、児童が話し手として準備を進めるのと同時に、聞き手としても準備を進めていけるような学習の過程を工夫している。

③ 司会者への指導

討論会における司会者の役割を明確にできるように、全体での討論及びグループ討論で司会を担当する児童に対して個別的に指導する場面を位置付けている。具体的には以下のような視点から指導を行っている。

- ◇一つの結論を導き出すのか、多面的に検討して考えを広げるのか、何をどこまで決めるのかなど、討論の方向性を確認し、討論会の冒頭で参加者に提示できるようにする。
- ◇討論の方向性を踏まえ柱立てをどうするかを考えて、参加者が話を進めやすくする。
- ◇意見が出ないとき、対立して収拾がつかないとき、話題がずれてしまったときなどにどう対応するか、進行や軌道修正するための言葉を考える。

④ 話し手・聞き手・司会者それぞれの立場や考えを明確にする指導

学習の過程において、グループ討論会を位置付けている。このグループ討論は、中間段階において、全体での討論会の前に一度討論を経験できるような指導過程を工夫したものである。

このことによって、述べようとする自分の意見が一面的なものにとどまっていなかったり、異なる意見や立場の参加者に対しても納得してもらえる根拠を示すことができているかなどを検討できるようにしている。また実際に質問したり、司会をしたりする学習の機会を確保している。

さらに討論会終了後に、どんな発言が自分の考えを深めたり広げたりするのに役立ったか、討論会を進める際に、どんな整理の仕方が有効だったか振り返る場面を設定し、今後の討論の機会に生かせるようにしている。